

小学校、中学校そして高等学校にも、生徒指導主事という役割を担う先生がいる。中学校の生徒からすれば、“生徒指導の先生”となる。本校では、Y先生が、その任にあたってくれている。Y先生とは、20年ちかく前に、一緒に勤務したことがある。その頃も、彼は生徒指導主事だった。

Y先生の朝は早い。教頭先生の次に早く学校に来るグループの一人である。グループというのは、複数いるということである。本校では、生徒が登校してくる時間には、学年ごとに態勢が整う。

Y先生は、職員室にいないなと思ったら、校庭に出て、授業のためにラインカーでラインを引いている。プールに行っている日もある。校庭からいなくなったと思ったら、今度は、生徒が登校してくる時間に合わせて、昇降口前に立っている。そこにも、ずっといるわけではない。校門から出て、どこかに歩いていったかと思うと、生徒の登校状況を見ながら現場指導をしている。

授業の担当は、保健体育である。授業が入っていない、空き時間には、別室登校の生徒が学習している学習支援室にも顔を出す。教育相談担当も兼ねているため、毎週行われる生徒指導委員会の司会進行だけでなく、教育相談委員会の司会進行も務めている。推進役にコーディネーター役と、まさに、縦横無尽の活躍である。

初任者のSS先生には、Y先生をよく見ておくように言ったことがある。Y先生とSS先生には共通点がある。どちらも剣道をやっていた。それも大学までバリバリである。Y先生は、いろいろと素晴らしいのだが、特筆すべきは、その挨拶である。必ず、立ち止まって姿勢を正し、きちんと頭を下げて挨拶をする。なかなかできることではない。

剣道をやっていた影響だと思っていた。だが、SS先生の挨拶は普通だった。半分冗談で「なんで、同じ剣道をやっていたのに、君の挨拶はY先生と違うんだ」剣道の影響はあるかもしれないが、Y先生という“人”が、あのきちんとした挨拶をさせるのだろう。Y先生は、教員になってから、もう30年以上も、あの挨拶を続けているはずである。

半分、仕方なく始めたことだとは思いますが、SS先生の挨拶もY先生にだんだんと近づいてきた。すると、SS先生の印象が変わってきた。加えて、人としての中身も変わってきたように感じる。SS先生は、まだ経験がないので、いろいろなことが、どんどん入っていく。もちろん、その根底には、彼が努力を重ねて、りっぱな教員になろうとしている姿勢や意欲、態度がある。

中学校の生徒指導主事は、時として、一人で孤軍奮闘、獅子奮迅の活躍となることもある。そうなるということは、その学校の生徒指導が機能していないということである。SS先生に、こんなことを言ったこともあった。「Y先生のような人を一人にしてはいけないよ」「Y先生を一人にするような学校ではいけないんだよ」SS先生は、しみじみと聞いていた。その意味がわかったようであった。

6月中旬頃からY先生が昇降口前にいないときに、まるでその代わりを務めるかのように、SS先生が大きな声であいさつをして、生徒に声をかけるようになった。その姿を見て、私はうれしい気持ちになる。Y先生は、何も言わずとも、SS先生のことを育てているのである。それこそ、背中で導いている。

SS先生に、こんなことも聞いた。「Y先生を目指してみる？」すると、「いや、いいです」即答だった。それもどうかとは思いますが、SS先生は、自分がY先生とは違うタイプであることを自覚しているのである。それでかまわない。それにもかかわらず、Y先生の代わりを務めようとする姿勢が大切である。

一度、生徒に見せたいと考えているものがある。それは、きちんとした、心が整った挨拶から始まるY先生とSS先生の本気の剣道の対戦である。きっとすごいことだろう。私が、野田中学校に来て運がいいと思ったことの 하나가、Y先生の存在である。Y先生がいるといないとでは、大違いである。まもなく、1学期が終了する。Y先生の働きに感謝しながら終業式を迎えたい。